令和６年度　都城市立木之川内小学校　学校運営協議会評価報告書

【4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要す】

評価項目				自己評価コメント	総合評価	学校関係者評価コメントⅠ	学校関係者評価コメントⅡ	評価
知	学力の向上と定着	1	授業改善を通した学力向上	昨年度の各種検査の結果分析を行ったところ、「問題を読み取る力が足りない。大切な部分を抜き出したり、理由や考えを適切な言葉で書く力が乏しい」「問題文や図から情報を読み取り、問題に答えることができない」等の課題が明らかとなった。そのため、昨年度に引き続き、研究主題「読み解く力の育成」、副題「木小スタンダードの追究を通して」と設定し、国語科の研究に取り組んだ。学期Ⅰ回の研究授業（1学期:6年生 2学期:3年生）を行い、ICTの効果的な活用を含めた授業について研究を深めた。職員も児童もICT活用が高まってきており、引き続き、都城市の「わ」（脇役に徹する）「さ」（先を読む）「び」（微細な変化に気づく）の授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、学力向上に努めいくことが必要である。（「分かりやすい授業」児童:96.1% 保護者:98% 職員:88.9%）	3.4	・ 授業参観で「水の量」について、いろいろな形の容器で量を図る授業をされているのを見て、素直に楽しそうで子どもたちの興味を引く内容だった。これからの子ども達は実践的な授業がもっと必要かなと感じた。 ・ ICTを効果的に活用しながら、先生方が分かりやすい授業を目指して工夫されていることが分かった。今後も少人数での指導を生かして、一人一人に力を付けてもらいたい。 ・ 学習支援で来ている子ども達の宿題を見ていると、授業をある程度は理解していると思う。 ・ ICTの効果的な活用と並行して、問題文をじっくり読み取る力を付けさせてほしい。 ・ 答えを探し出すのに性急になりすぎる子どもが多く見られる。 ・ 携帯やタブレットが当たり前の時代になり、書く、読むことがなくなったのが学力低下につながっているのでは。小テスト等の問題を多くすることで、少しはよくなるのではと思う。	木之川内小学校では、学力向上と定着を目指した取り組みが着実に進められています。昨年度の各種検査の結果から明らかになった「問題を読み取る力」や「情報を適切に整理して表現する力」の不足といった課題に対して、的確な分析と計画的な対応が行われています。 特に、研究主題「読み解く力の育成」と副題「木小スタンダードの追究を通して」の下、国語科を中心に課題解決を図るための授業改善が進められています。学期に1回行われる研究授業では、ICTの効果的な活用が重視され、児童だけでなく教職員のスキルも着実に向上している点が評価できます。この取り組みは、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童の学力向上に大きく寄与していると感じられます。今後は、これまでの取り組みをさらに深化させるとともに、各学年・教科での成果を他の教育活動にも展開することで、より広範な学力向上を目指すことが期待されます。また、児童一人ひとりの成長に寄り添いながら、地域や保護者との連携をより一層強化することで、木之川内小学校の教育がさらに発展することを確信しています。	3
		2	木小スタンダードの定着	年度当初、基本的な学習訓練についてのきまりを定めた「木小スタンダード」について、職員間で共通理解を図り、共通実践を行った。その結果、身の回りを整え、落ち着いた態度で真剣に授業に臨み、学習内容を理解しようとする姿が多く見られている。課題としては、鉛筆を正しく持ったり、正しい姿勢を維持したり、はっきりと返事をしなかったりする児童もいるため、今後、学習指導過程を設ける等して指導し、定着を図っていくことが必要である。（「進んで学習」児童:82.4% 保護者:94.2% 職員:77.8%）	3.2	・ 木小スタンダードの定着を通して、目指すべき子どもの育ちの点で、掲げてあることは素晴らしいことだと思う。（子どもの肯定的評価を伝える、自分の良さを発揮して成長できる、やる気と自信を育む）これからの職員や地域の方々と議論し研究し合い進めてほしい。 ・ 授業参観でも落ち着いた授業の様子はうかがえたが、進んで学習していると捉えている保護者が多いというのは素晴らしい。学校の思いが十分伝わっているのではないか。 ・ 画一化するのではなく、その子に合った指導をしてほしい。 ・ 木小スタンダードを大きく明文化して、家庭教育でも一緒になって続くるんで取り組むとよいと思う。	木之川内小学校では、年度当初に「木小スタンダード」を定め、職員間で共通理解を図り、共通実践を進めた結果、児童たちが落ち着いた態度で真剣に授業に臨む姿が多く見られるようになりました。特に、身の回りを整える習慣や学習内容を理解しようとする意欲が向上している点は大きな成果です。 一方で、一部の児童において鉛筆の持ち方や正しい姿勢、返事の習慣が課題として残っています。今後は、学習指導過程を設けるなどの取り組みを通じて、これらの基本的な学習態度の定着を図ることが期待されます。保護者からの94.2%の高い評価も得られており、今後の更なる発展を支える基盤が整いつつあると感じられます。	3
		3	読書活動の推進	年間貸出目標冊数を4500冊と設定し、12月現在5000冊を達成している。図書館サポーターにより図書室の環境整備が充実し、様々な企画が催されている。給食時間における図書館サポーター（毎週1回）やドロップスの会、職員による読み聞かせもあり、児童の読書意欲の向上につながっている。1、2年生は、11月に都城市立図書館見学も行っている。課題としては、読む児童と読まない児童の二極化が進んでいるため、新たな手立てを考えていくことが必要である。また、自分の好きな本を紹介したり、読書感想文コンクールを企画したりする等、児童の発表の場を設けることも必要である。 （「進んで本」児童:72.5% 保護者:70.6% 職員:90%）	3	・ 貸出目標冊数が目標達成したことは、大いに評価される。 ・ 全体での読書冊数の達成はとても素晴らしい。しかし、二極化の状態を考えると、今後も読書への意欲付けと学校及び家庭での読書できる時間の確保等の工夫が望まれる。宿題を増やしてほしいという意見もあったが、学習も含めた家庭でのよりよい過ごし方についても、保護者と意見を交換できるとよいのではないか。 ・ スマホやタブレット等の影響で、活字離れが進んでいるのではないか？ ・ 最初はマンガでも図鑑でも好きな本を手に取って読んでほしい。 ・ 図書館サポーターの環境整備は評価できると思う。 ・ 読書感想文コンクールの企画をお願いしたい。 ・ 図書室やクレヨン号で借りてはいるが、読まず、そのまま返却している子どももいると思う。業間等で読書の時間をつくっていただきたい。	木之川内小学校では、年間貸出目標冊数4,500冊を大きく上回り、12月現在で5,000冊を達成するなど、児童の読書活動が活発に行われています。図書館サポーターによる環境整備や多様な企画の実施により、図書室が より身近で魅力的な場所となり、給食時間の読み聞かせや読書会なども読書意欲の向上に寄与しています。 特に、1・2年生の都城市立図書館見学や教職員による読み聞かせの活動は、読書習慣の基盤を作る上で有効な取り組みでした。一方で、読む児童と読まない児童の二極化が課題として挙げられており、今後は児童が本の感想を発表する場の設置や読書感想文コンクールの企画など、全児童の読書意欲を引き出す新たな工夫が求められます。 保護者（70.6%）や教職員（90%）からの高評価が示すように、これらの取り組みは大きな成果を上げていますが、児童一人ひとりが読書を楽しみ、学びにつなげる環境づくりをさらに進めていくことが期待されます。	3
徳	思いやりの心の育成	4	人権教育・道徳教育を通した思いやりの心の育成	道徳の授業を要に全教育活動で道徳教育を推進している。また、学級活動の授業では、自分たちの学級の課題解決に向けた話合いやよりよい人間関係の形成について指導している。低学年から学年の構成メンバーがほぼ変わらないが、本年度から、2・3年、4・5年が複式学級となったことや、運動会や奉仕活動等で、異学年との交流活動を意図的に設定したことにより、優しい声かけや助け合う姿が見られたり、それぞれの立場や考え方を学んだりしている。課題としては、児童によっては相手のことを考えないような言葉遣いやよくないと思っていることでもリーダー的存在の児童に流されてしまっているという様子も見られる。引き続き、全教育活動を通して指導していくことが必要である。（「思いやりのある行動」児童:80.4% 保護者:94.1% 職員:63.6% 「いじめ・不登校への対応」児童:86.3% 保護者:88.2% 職員:81.8%）	3.1	・ いろいろな行事の様子を見ていて、全体的に仲の良さやチームワークを感じる。少人数の学校の良さもある。 ・ 一人一人が様々な活動の中で、リーダーや代表としての経験（成功でも失敗でも）を積んでいくことができるのも少人数のよさではないか。是非、多くの児童に体験の場を設けてほしい。 ・ 近年は、多様性の尊重が重要視されている。障がいのある子も健常者も分け隔てなく、認め合える社会になるように教育してほしい。 ・ 相手のことを考えないような言葉遣いを時々耳にするが、コミュニケーション能力の低さが逸因にあるのかなと思う。	木之川内小学校では、道徳の授業を中心に全教育活動を通して道徳教育を推進し、学級活動では課題解決に向けた話し合いや良好な人間関係の形成に努めています。本年度から複式学級の導入や運動会・奉仕活動での異学年交流を意図的に行った結果、優しい声かけや助け合う姿が見られるなど、児童同士の相互理解が深まっています。 一方で、相手のことを考えない言葉遣いや、リーダー的存在に流される行動が一部の児童に見られることが課題として挙げられます。引き続き、全教育活動を通じて指導を強化し、思いやりのある行動や主体的な判断ができる児童の育成を目指すことが必要です。 保護者の94.1%から高い評価を得ている一方で、職員評価（63.6%）に課題が残るため、教職員間の共通理解と指導力の向上を図る取り組みも求められます。いじめや不登校への対応についても児童・保護者から高い評価を得ており、これを維持・発展させる取り組みが期待されます。	3
		5	対人関係能力の育成	本校の「めざす子ども像」は、「みんなで支えあい みんなが笑顔 みんなが元気」であり、全校であいさつに取り組んでいる。毎朝、児童玄関の前で、班毎に、大きな声であいさつをすることを継続して行っている。元気のよい大きな声のあいさつが聞かれる。また、全職員自ら進んで児童にあいさつをすることによって、児童の様子を知ることにもつながっている。芋の栽培活動や読み聞かせ、山田りんどう福祉会との交流、園児との交流、地層見学、YD学習、宿泊学習、運動会、依頼り等、地域と交流する機会があり、対人間関係能力の育成につながっていると考えられる。課題としては、家庭との連携を密にしながらどの児童も進んであいさつができるようにしていくことが必要である。自分の思いや考えを明確に伝えることや人との接し方を学ばせていくことも必要である。 （「進んであいさつ」 児童:82.4% 保護者:84.3%）	3.4	・ 今後も学校以外での交流も計画実施していただき、学校以外での人間関係にふれ合う時間を取っていただきたい。 ・ 山田地区はずっとあいさつを大切にしているので、「進んであいさつ」は90%以上を目指してほしい。 ・ あいさつは、大体ができているが、声が小さい？ ・ 世代間交流を計画してほしい。・「子は親を見て育つと」言う。親が自ら進んで地域の人とあいさつを交わすことが対人関係能力の育成につながると思う。	木之川内小学校では、「みんなで支えあい みんなが笑顔 みんなが元気」という「めざす子ども像」の実現に向け、全校であのあいさつ運動を継続的に行っています。毎朝、班ごとに元気な声であいさつを交わす習慣が定着し、全職員も積極的に児童に声をかけることで、児童の様子把握や対話が進んでいます。 また、地域や園児との交流、芋の栽培、運動会や依頼りといった活動を通じて、児童の対人間関係能力が育まれている点も大きな成果です。一方で、家庭との連携を深めながら、すべての児童が進んであいさつを実践できるような支援が必要です。また、自分の思いや考えを明確に伝え、人と接する力をさらに育む指導が求められます。 保護者からの84.3%の評価は高い信頼を示しており、これを基盤に全児童の成長を支える教育活動を引き続き推進していくことが期待されます。	3.3
体	体力の向上	6	体力向上	年度当初、スクールスポーツプランを全職員で共通理解した。体育科の授業では、開始時に3分間走をしたりサーキットコースを回ったりしている。学校全体では、立腰指導や朝の会の前にロコモ予防ストレッチをすることを継続して行っている。水泳（水遊び）や持久走、縄跳び等、昼休み時間の外遊びにより、児童の体力は向上している。課題としては、休日や帰宅後には家の中で過ごし、運動していない児童もいるため、家庭と連携しながら体力向上につなげていく必要がある。本年度の新体力テストの結果によると、A判定の児童が増えていたが、「上体おこし」や「長座体前屈」が県平均を下回っているため、柔軟性を高める運動に更に取り組んでいくことが必要である。また、毎日の登下校や昼休みの外遊びも体力向上において今後も推進していく必要がある。（「進んで運動」職員:100%（「期待以上」25.0%「ほぼ期待どおり」75.0%））	3.3	・ 体育授業前の3分間走やサーキット等、とても良い取組だと思う。今後も体を動かすことで健康的な体づくりを目指してほしい。 ・ 「進んで運動」が100%なのは素晴らしい。今後も外遊びの励行や体育の時間での運動時間の確保や課題となっている「柔軟性を高める運動」を継続的にしていってほしい。生涯に渡って運動に親しむ健康な体づくり、習慣づくりにつながると思う。 ・ 水泳をする時間が圧倒的に少ない。泳げない子どもが多いのではないか？ ・ 夏休みに、プールの開放はできないか？（地域やPTAの協力を元に） ・ マラソン大会や運動会で走る能力が低い子どもが目立った。外遊び（ソフトやサッカー）が盛んになるような手立てが必要なのではないか。 ・ ゲームをする子どもが増えているが、外で元気よく遊んでいる姿をもっと見たい。気温の上昇も外で遊びをしなくなっているとも考えられる。	木之川内小学校では、年度当初にスクールスポーツプランを全職員で共有し、体育科や日常活動を通じて児童の体力向上に取り組んでいます。体育の授業では3分間走やサーキット運動を導入し、学校全体で立腰指導やロコモ予防ストレッチを継続的に実施しています。また、昼休みの外遊びを活用した水泳、持久走、縄跳びなどの活動により、児童の体力向上が着実に見られます。 今年度の新体力テストの結果では、A判定の児童が増加し、全体的な成果が確認されました。一方で、「上体おこし」や「長座体前屈」が県平均を下回っており、柔軟性向上に向けた運動をさらに強化する必要があります。また、休日や帰宅後に運動不足となる児童への対応として、家庭との連携を深めることも重要な課題です。 職員からの取り組みに対する評価は非常に高く（期待どおり:100%）、全員での意識的な指導が児童の健康と体力向上に良い影響を与えています。今後も、毎日の登下校や外遊びを体力づくりの一環として推進し、児童の健康増進に努めていくことが期待されます。	3.2
		7	基本的な生活習慣の定着	今年度から6月と10月に生活リズム週間を実施し、家庭と連携して生活習慣の改善を目指し指導している。（早寝ができた:6月～70%、11月～75.5%朝ごはん・99% 夜の歯みがき:98% メディアをする時間2時間以内:70%）課題としては、寝る時刻が遅かったり、平日でもメディアを長時間していたりする児童がいるので、今後も週間を設けて継続した指導をしていくことが必要である。むし歯の児童が多く、一昨年から歯の健康について取り組んでいる。今年度は家庭での夜の歯みがきが定着し、健全歯の割合も増加している。「お子さんのゲーム機やスマホ等の電子機器の使用を適切に管理している」という質問に対して、51名中9名が「やや期待を下回る」「改善を要する」と回答している。児童への指導及び家庭への啓発を図っていくことが必要である。 （「早寝、早起き、朝ご飯」児童:72.5% 保護者:76.5% 職員:81.8% 「スマホ等の電子機器の管理」保護者:82.3%）	3.1	・ 家庭との連携がなければ難しい問題。生活リズム週間を設けて意識づけができたことは良かった。 ・ 全国でも小学生の基本的な生活習慣の乱れて、原因としてスマホやタブレットによるゲームやSNS等の長時間利用が課題で、児童と保護者が一緒に学ぶ機会や外部講師の活用等を重ねていってほしい。 ・ 朝の登校時の見守りで、朝起きれなくて親に車で送ってもらう子どもが、毎朝、何人かいる。（早寝・早起きの習慣を！） ・ 朝ごはんの重要性を啓発して、腸内環境が免疫力と大きく関連していることを理解させるとよいと思う。 ・ ゲームやスマホを一人一台ずつが当たり前になり、親が時間を制限してあげる等、家庭での話合いをもっと呼びかけてはどうか。	木之川内小学校では、今年度から6月と10月に「生活リズム週間」を設け、家庭と連携して児童の生活習慣改善に取り組んでいます。その結果、早寝の割合が向上し（6月:70% → 11月:75.5%）、朝ごはん（99%）や夜の歯みがき（98%）の定着が見られるなど、一定の成果が確認されています。また、歯の健康に関する取り組みが定着し、健全歯の割合も増加しました。 一方で、寝る時刻が遅い、平日でも長時間メディアを利用する児童が依然として課題として残っています。また、保護者アンケートでは電子機器の適切な管理について一部で改善が求められており（「改善を要する」9名）、児童への継続的な指導や家庭への啓発が必要です。 「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みについては、保護者から76.5%、職員から81.8%と高い評価を得ており、今後も生活リズム週間の継続や家庭とのさらなる連携を通じて、児童の生活習慣の定着と健全な成長を支える取り組みを進めていくことが期待されます。	3
地域とともにある学校づくり		8	家庭や地域との連携の充実	本年度も地域コーディネーターが中心になり、芋の苗植えや芋掘り、町探検、ミシン縫い、持久走大会監視等、様々な教育活動を学校支援ボランティアに協力していただいた。依頼りに関しては、依頼り保存会の方々に懇切丁寧に指導していただき、運動会では見事な依頼りを披露することができた。アンケート結果からも、児童の自分の地域への愛着心が高いことや指導する職員も現在の地域人材の活用に対して満足感が高いことがうかがえる。参観日（持久走大会を含む）には多くの保護者の方が出席された。課題としては、学校保健委員会（本年度は、食に関する講話と給食試食会）への参加者が少ないため、保護者が参加しやすい期日や興味のある内容等について検討していくことが必要である。（「自分の住んでいる地区が好き」児童:90.2% 「地域人材や関係機関との連携」職員:100% 「保護者からの要望への適切な対応」保護者:94.2%）	3.4	・ 町探検だけでなく、もっとこども園の子ども達とふれ合う機会があると良い。 ・ コーディネーターを通じ、学校が地域との連携がしっかり取れていて、子ども達に豊かな体験が実施できていて素晴らしい。今後も地域と一緒に児童が地域の一員として活躍できるように取り組んでほしい。 ・ 積極的に学校支援ボランティアの会を活用してもらいたい。 ・ 運動会やマラソン大会での家族の応援は児童にとって、とても心強いことであった。 ・ 食に関する講話と給食試食会は地域全体に呼びかけてもよいと思う。（定員打ち切り） ・ 子どもの数が今後減少していく中だが、地域とのふれあいを増やして、学校と地域で見守っていかないといけない。	木之川内小学校では、地域コーディネーターを中心に、学校支援ボランティアや地域人材と連携し、芋の苗植え・芋掘り、町探検、依頼り指導、持久走大会監視など、多様な教育活動を実施しました。依頼り保存会の丁寧な指導により、運動会で素晴らしい依頼りが披露されるなど、地域文化の継承に大きく貢献しています。 アンケート結果からも、児童が自分の地域への愛着を強く持っていること（90.2%）や、職員が地域人材の活用に対して高い満足感を示していること（100%）が明らかです。また、参観日や持久走大会には多くの保護者が出席し、地域と学校のつながりが強まっています。 一方で、学校保健委員会への保護者の参加者が少ないことが課題として挙げられます。今後は、参加しやすい期日の設定や、より保護者の興味を引く内容の企画など、参加促進に向けた工夫が求められます。引き続き、地域や保護者との連携を深め、児童の健やかな成長と地域への愛着心の醸成を支える活動を推進していくことが期待されます。	3.5
		9	開かれた学校づくりの推進	学校便りや学級通信の定期的な発行や学校ホームページの更新、更には、本年度から新たに地域の回覧板の活用により、本校の教育活動について保護者や地域の方に広く情報発信をしている。本年度から、運動会に地域の方や保護者、新入児の競技種目を取り入れ、運動会を盛り上げることができた。かかしっ子塾やドロップスの会による読み聞かせも実施されている。課題としては、本校の教育活動に対する地域の方の思いや考えを吸い上げる手立て（例えば、コロナ禍前に実施していた木小座談会）を考えていくことが必要である。 （「分かりやすい情報発信」保護者:98.0% 職員:100%）	3.5	・ 運動会での地域の方・新入児参加種目等、増えて盛り上がった。また、昨年提案された回覧板活用等、実施され前向きに取り組んでおられる。 ・ 分かりやすい情報発信も保護者98%、職員100%は日頃ホームページや通信が機能していることを表しているのだろう。今後も地域全体で子どもの成長を見守るために子どもの姿が分かる情報発信を続けてほしい。 ・ まち協の「いきいき通信」も利用してPRをしてほしい。 ・ 以前実施していた木小座談会では、色々な意見が出ていて、人を知ることができた。是非、再開してほしい。	木之川内小学校では、学校便りや学級通信の定期発行、学校ホームページの更新、さらに地域の回覧板の活用を通じて、保護者や地域の方々への情報発信を積極的に行っています。その結果、保護者（98.0%）や職員（100%）から「分かりやすい情報発信」として高い評価を得ています。また、運動会では地域の方や保護者、新入児を対象とした競技種目を取り入れ、地域との一体感を醸成するとともに、かかしっ子塾やドロップスの会による読み聞かせも実施され、児童の学びを深める活動が行われています。 一方で、地域の方々の意見や思いを吸い上げる仕組みが不足しており、コロナ禍以前に実施していた「木小座談会」のような場の復活や新たな取り組みが必要です。引き続き、地域や保護者と連携し、児童の成長を支える教育活動をより一層充実させることが期待されます。	3.3